

今月の



隣に伝えたい 新たな言葉と概念

【食物蛋白誘発胃腸炎】

英 food protein-induced enterocolitis syndrome

略 FPIES

類 同義語：消化管アレルギー

食物蛋白誘発胃腸炎（FPIES）は原因となる食べ物を摂取してしばらくしてから嘔吐や下痢、血便などの症状が出現するIgE非依存性の食物アレルギーである。一般的なIgE依存性の即時型食物アレルギーで見られるじんましんや咳、喘鳴などの症状が無いことが特徴の一つである。FPIESは原因食物摂取から数時間で消化器症状が出る急性のタイプと症状の出現に数日かかる慢性のタイプに分けられる¹⁾。

- 急性FPIESは食物摂取後約1～4時間で強い反復性の嘔吐が出現する。顔色が蒼白となり下痢を伴うこともあるが、症状は数時間で消失する。
- 慢性FPIESはほとんどがミルクによるもので、断続的な嘔吐、血液や粘液を含む下痢、不機嫌、倦怠感などの症状が見られる。これらの症状は摂食のタイミングと時間的に関連しておらず、他の疾患の症状と重なるため診断が遅れて重篤になることがある。

FPIESでは、牛乳、大豆、鳥肉、卵、麦、米、果物、野菜などほとんどの食物がトリガーとなることがわかってきた。また、卵黄によるFPIESの報告が日本に多いなど、食生活の違いによる地域差があることもわかっている²⁾。診断は原因として疑う食べ物を除去すると症状が改善すること（食物除去試験）、再投与で症状が再び出現すること（食物経口負荷試験）そして他の疾患が除外できることである。治療は原因食物の除去であるが、治療によって栄養素が不足しないよう注意が必要である。また、幼児期に治ることが多い疾患であるため、定期的な食物経口負荷試験で寛解を確認する。

参考文献：

- 1) Baker MG, Sampson HA. Recent trends in food protein-induced enterocolitis syndrome (FPIES). J Allergy Clin Immunol 2023 ; 151 : 43-6.
- 2) Watanabe Y, Sakai H, Nihei M, et al. Early tolerance acquisition in hen's egg yolk-associated food protein-induced enterocolitis syndrome. J Allergy Clin Immunol Pract 2021 ; 9 : 2120-2122.e2.

(国立病院機構仙台医療センター 小児科 久間木 悟)
本誌26pに記載